



100 Architects & Designers
of New Generation

新世代 建築家 デザイナー 100

ニッホンの
未来を担う
建築家・デザイナー
オールレビュー

HOME No.12
建築家・デザイナー
の未来を担う

巻頭インタビュー 長谷川祐子 × 五十嵐太郎
融合する建築、アート、デザイン

059

ドレル・ゴットメ・田根 / アーキテクト

DORELL.GHOTMEH.TANE / ARCHITECTS

バルト3国の1つ、エストニアが、国の文化の礎となる国立博物館のコンペを行ったのは2006年のこと。勝者は、ドレル・ゴットメ・田根 / アーキテクト。国籍の異なる若い3人の建築家によるチームだ。メンバーの1人、田根 剛は当時わずか26歳。日本人最年少で国際コンペを勝ち取った彼は、どのように“建築”を考えているのだろうか。

Text - 山田十五

——建築家を志すようになったきっかけから、コンペに至るまでについてお話しください。

田根 幼い頃からサッカー選手になりたいと思っていました。あるチームのユースにも所属し、高校もチームに通いやすい環境で選んだほどです(笑)。ただ、自分は一流の選手にはなれないと気づいたことをきっかけに、別の道を探るようになりました。そこで出会ったのが建築です。

進学先は、北海道にある大学の建築学科です。進学後は2年間で授業を履修し終えてしまい、3年生になる前に卒業研究を残すのみという状態になったのです。そこで、スウェーデンの大学に留学しました。北欧の専門教育は、高い社会性を持ち、専門的に学ぶからこそ他分野への眼差しも求められます。1年間の留学を終え、大学卒業後には再度その文化に触れたいと思い、今度はデンマーク王立アカデミーへと進みました。

その際の担当教官が、デンマークを代表する建築家、ヘニング・ラーセン事務所のスタッフで、卒業時に声をかけてもらいました。コンペ案を考えるスタッフとなりましたが、自分のアイデアを最後まで形にしたいという思いも強く、1年でロンドンのデヴィッド・アジャイの事務所へと移ることになりました。デヴィッド自身も含め、スタッフが皆若く、1人1作品を担当するという環境です。非常に刺激的でしたが、その後コンペに勝利したことで、自分たちの事務所を立ち上げることになったのです。

——コンペ案、そしてその取り組みはどのようなものでしょうか。

田根 エストニア国立博物館は2009年に創立100周年を迎えます。その記念事業として、現在街中にある既存の建物から、100年前に博物館があった敷地に新規に建設したいという内容でした。コンペには友人のリナ・ゴットメ、ダン・ドレルと取り組みました。彼らは当時、ジャン・ヌーベルとノーマン・フォスターが共同設計するプロジェクトのため、ヌーベル事務所から派遣されて、ロンドンに滞在していました。コンペの提出には3週間ほどしか時間がなく、昼はそれぞれの事務所です仕事、夜になると皆が集まって朝まで作業に取りかかり、朝になるとシャワーを浴びて事務所に行



上: 2011年竣工予定のエストニア国立博物館内観CG。下/外観CG。
©Dorell.Ghotmeh.Tane / Architects



新潟のダンスカンパニーNoisimの公演「PLAY2PLAY」の舞台美術も手がけた。
©藤山紀俊



©Gaston Bergqvist

くという生活でした。

計画地は、森と湖に囲まれた気持ちのよい空間で、現在は使われていない1.5kmほどの滑走路が隣接しています。リサーチをすると、そこは旧ソ連軍の滑走路として使われていたというネガティブな歴史を抱えていたことが分かりました。そこで、この滑走路をステージとして、彼らの新たな記憶を蓄積させる場であり、身体を通じて歴史を感じてもらえる施設となるよう計画しました。

エストニアの人々にとって歴史とは、支配されてきた歴史でもあります。多くの国に支配され、文化も混在しています。だからこそ自らのルーツを探り、文化の礎を築こうとしている。ここではアイデンティティを確立する場である必要がありました。

——設計への取り組みかたを教えてください。

田根 僕たちは、設計にあたり文化や社会的背景などその“場”を詳しくリサーチします。建築はその土地の背景から生まれるべきだと考えているからです。情報が行き届いた現代では、表面的なスタイルに固執すると消費されてしまう恐れがある。それでは、強度のある建築はつくれません。僕たちは、その場でしかつくり得ない建築をつくりたいと考えています。そのためには、社会や文化、生活を内包し、時代を超える永続性をもつことが、リアリティに対する挑戦だと思っています。

20世紀は、空間の量が増えたにも関わらず、空間の質が損なわれた時代でもありました。それ

を解消していくことが、建築家やデザイナーの課題ではないで

ダン・ドレル、リナ・ゴットメ、田根 剛
事務所名 DORELL.GHOTMEH.TANE / ARCHITECTS
業務内容 建築、都市計画、内装、舞台空間など
経歴 ©ダン・ドレル/1973年イタリア・テルアヴィブ生まれ ©リナ・ゴットメ/1980年レバノン・ベイルート生まれ ©田根 剛/1979年東京都生まれ
それぞれが、ジャン・ヌーベル、レンゾ・ピアノ、デヴィッド・アジャイなど、国際的な建築家の下で経験を積み 2006年DORELL.GHOTMEH.TANE / ARCHITECTS(パリ)を設立 2007~2008年文化庁よりフランス新進建築家賞を授賞 2008年現代の若手建築家ヨーロッパ44人に選出される
愛読書 『モモ』(ミシェル・エンデ)
趣味 旅、読書、舞台鑑賞など
URL www.dgtarchitects.com

しょうか。僕たち3人は、それぞれに異なる背景をもって生まれ、育ちました。当然ぶつかり合うことも多い。しかし、ディスカッションを重ねることで3人に共通する価値観もあることが分かりました。そのなかから、さらに、普遍的な要素を見出し出していきたいと思っています。